

赤く透明なビー玉のように
無邪気な少年の心が
小さな恋と冒険をさそう……

「禁じられた遊び」以来のフランス映画珠玉の名篇！

さわやかな涙と笑いが感動を呼ぶ

お兄ちゃんがんばって
ナチスなんかには負けないぞ
ママのところへ帰るんだ

ジョセフ少年 リシャール・コンスタンティニ
小さな恋人 ドミニク・デュクロ
ポール=エリック・シュルマン 主題曲=ニニ・ロッソ(ビクターレコード)
監督・脚本 ジャック・ドワロン ● 原作ジョセフ・ジョッフオ(ホンヤク出版社刊)
音楽 フィリップ・サルド 東北新社提供 ※ 富士映画配給

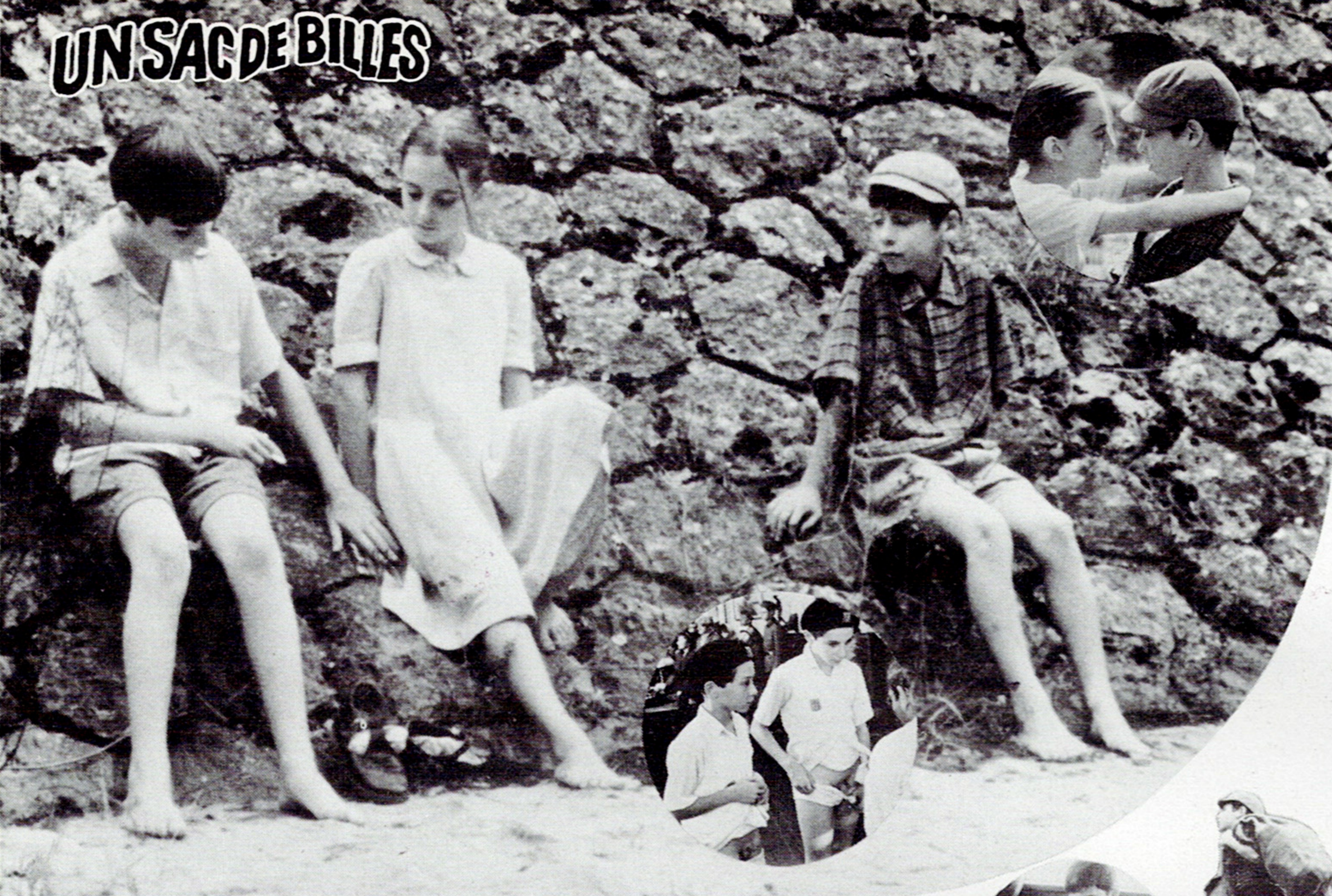
❖昭和51年度芸術祭参加作品❖

UN SAC DE BILLES

小さな赤いビー玉

イーストマンカラー・フランス映画

UN SAC DE BILLES



■ スタッフ

総指揮……………
ピエール・グランステイン
製作……………ジェローム・カナパ
監督・脚本…ジャック・ドワロン
原作……………ジョセフ・ジョッフオ
（『一袋のビー玉』より）
音楽……………フィリップ・サルド
主題曲 ニニ・ロツソ（ビクターレコード）

■ キャスト

ジョセフ……………
リシャール・コンスタンティーニ
モーリス……………
ポール＝エリック・シュルマン
フランソワーズ……………
ドミニク・デュクロ



小さな赤いビー玉

フランス映画《カラー作品》東北新社提供/富士映画配給

●十年に一作、又、珠玉の名篇が誕生した！

数々の名作を生んだフランス映画界が、厳しい環境にもめげず、強く、明るく生きる、少年たちを主人公に、新鮮な感覚と映像美で描いた感動の名作「小さな赤いビー玉」を完成させた。

過去に、一九五三年、ポールレットと少年ミツシエルを通して戦争の悲惨さを鋭く描いた「禁じられた遊び」（監督ルネ・クレマン）。一九六三年は、子供たちの世界を、ちびのジユビスを通して明るく描いた「わんぱく戦争」（監督イブ・ロベール）。そして、厳しい戦時下で、幼いジョセフとモーリス兄弟を通して明るく自由に生きる少年の姿を感動的に描いた「小さな赤いビー玉」が生まれた。主人公のジョセフに、百名近い候補者の中から選出せず、偶然監督の目に止ったサッカー好きで、リシャール・コンスタンティーニ。兄モーリスに、健康的な顔に監督がひかれたという、ポール・エリック・シュルマン。ジョセフの幼い恋人フランソワーズに、妖精のように愛くるしい、ドミニク・デュクロ。この三人が選ばれ、素人の自然で新鮮な演技が素晴らしい。原作は、一九七三年発売されるや、たちまち50万部を売りベストセラーになった、ジョセフ・ジョッフオの自伝小説『一袋のビー玉』。

監督には、名匠フランソワ・トリュフォーが、その作品を絶賛したという、若冠32歳のジャック・ドワロン。まさにドワロンの代表作として、今やパリで大ヒットすると共に、「まさに十年に一度の名作」と、絶賛を浴びている。

●おとなたちの戦争は、まだ終わらない

一九四一年の終り頃、フランスのパリ。かつての華やかさを失い、暗い灰色の時代を迎えていた。ナチス・ドイツ軍の侵略は激しくユダヤ人狩りも日に日に熾烈をきわめてゆく。人々の自由は奪われ、小さな床屋を営んでいるジョッフオ一家にも、危険が迫っていた。両親は半ば運命とあきらめていたが、若い息子たちは、パリ脱出を計画していた。10歳のまだあどけなく、利発で可愛いジョセフ（リシャール・コンスタンティーニ）と、大人っぽくしっかりした12歳の兄モーリス（ポール・エリック・シュルマン）。二人の少年は、ドイツ軍に占領されていない、美しい観光地マントンへ向け、脱出を決行した。ドイツ軍の目が光る中を、身分証明書も許可書も持たない彼らに、数々の試練が待ち受けていた。小さな勇気と無邪気な知恵で、難関を乗り越える二人の少年。彼らは暗い世相と関係なく、おおらかに明るく自由に生きてゆく。それは、あたかも小さな赤いビー玉の世界を見るように――

肉親との別れ、田舎町での学園生活、列車での逃避行、食糧を得るための畑仕事、ナチでの抑留生活、そして可愛い少女フランソワーズ（ドミニク・デュクロ）との出会い。無邪気な少年たちの心は束縛されない。ジョセフとフランソワーズとのほのかに芽ばえる小さな恋。しかし楽しい時は長く続かない。少女との悲しい別れが待っていた。すべてをばらばらのけ、明るく生きようとする少年たち、――大人たちの戦争は、まだ終わらない。



6月1日(土)感動のロードショー

丸の内松竹

(201) 3720